

令和2年度 事業報告

令和2年度は第3次中期計画(3カ年)の2年目でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中で、「会員の健康と安全」を重点テーマに掲げ、「元気で活躍できる舞台づくり」「元気で仲間と楽しく集える居場所づくり」を目指しました。しかし、長引くコロナ禍の影響は大きく、年度当初に立てた事業計画は縮小せざるを得ず、各々の委員会が立てた計画の多くが中止となり、会員の活躍の場が大きく制限されました。地区活動においてもコロナによる行動制限により、地区役員会や班会議もできず、地区役員の皆様には大変なご苦勞とご心勞をおかけしたことを思います。

事業高においてもコロナの影響は大きく、受注の減少、発注者からの受注内容の削減、契約の解消が相次ぎ、前年度事業高より約6,900万円減少の6億8,900万円(前年度比90.9%)となりました。事業高の減少が、この程度で収まったのは、シルバー会員の仕事ぶりが、親切で丁寧、責任感あるものとして評価されたと考えます。就業現場で頑張っていた会員の皆様に心から感謝を申し上げます。

会員拡大では、コロナ禍による外出控えによる、入会説明会への参加が伸びず、退会者が上回ったため、会員数では前年度より56人の減少となり、年度末会員数は2,197人(前年度比97.5%)となりました。

就業率では分母となる会員数の減少が影響したため、81.7%と目標を上回りました。安全就業面では、傷害事故件数が昨年度と同数の16件でした。

センター及び地区での各種取組みも、コロナ禍の影響により、多くを中止しなければならぬ状況となり、事業計画を進める年度とはならず新年度へ先送りすることとなりました。

1. 事業実績

(1) 事業高

請負・委任の事業高

請負・委任の事業高も、コロナ禍の影響により、前年度比87.2%、約8,600万円の減少となりました。減少の第一の要因は、広報紙配布業務(前年度比75%)で約3,000万円減であり、その内訳は、令和2年度は選挙公報等のスポット配布が少なかったことと、コロナ禍により「県民だより」が1回配布中止、また「県民共済」の配布が全て中止となったことです。民間事業所関係の業務も、就業時間の短縮や契約終了もあり、一般家庭からの家事援助の依頼や便利屋チームの除草作業も減少しています。独自事業のパソコン教室、手作りチーム、あいつこの会、英語教室、包丁研ぎも前年度比77.1%の減少となりました。

事業種別	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前 年 度 比	
公共事業	139,833,323 円	164,962,611 円	140,803,251 円	▲24,159,360 円	85.4 %
民間事業	419,489,008 円	433,534,849 円	375,510,007 円	▲58,024,842 円	86.6 %
一般家庭	69,656,472 円	73,570,367 円	72,897,083 円	▲673,284 円	99.1 %
独自事業	6,636,677 円	4,709,493 円	1,076,741 円	▲3,632,752 円	22.9 %
合 計	635,615,480 円	676,777,320 円	590,287,082 円	▲86,490,238 円	87.2 %

一般労働者派遣事業（シルバー派遣事業）

令和 2 年度も請負業務に馴染まない受注は積極的に派遣契約に切り替えてきました。その結果、派遣の事業高は前年度比 121.2%で約 1,700 万円の増加となりました。

就業実人員は 164 人で前年度より 8 人減でしたが、派遣就業延人員では 20,517 人で前年度比 4,706 人の増となりました。

ただし、事業高は一定伸びましたが、契約終了や時間短縮となった受注もありコロナ禍の影響を受けた年度でした。

派遣事業	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前 年 度 比		
事業高	50,739,125 円	81,836,489 円	99,146,964 円	17,310,475 円	121.2 %	
会員賃金	39,669,967 円	64,405,952 円	79,497,120 円	15,091,168 円	123.4 %	
手数料収入	11,069,158 円	17,430,537 円	19,649,844 円	2,219,307 円	112.7 %	
※ 派遣収入	(4,838,510 円)	(8,434,800 円)	(9,758,100 円)	(1,323,300 円)	(115.7 %)	
就業実人員	78 人	172 人	164 人	▲8 人	95.3 %	
就業延人員	9,274 人	15,811 人	20,517 人	4,706 人	129.8 %	
平均就業日数	年	118.9 日	91.9 日	125.1 日	33.2 日	136.1 %
	月	9.9 日	7.7 日	10.4 日	2.7 日	135.1 %
月平均賃金	42,343 円	31,204 円	40,394 円	9,190 円	129.5%	

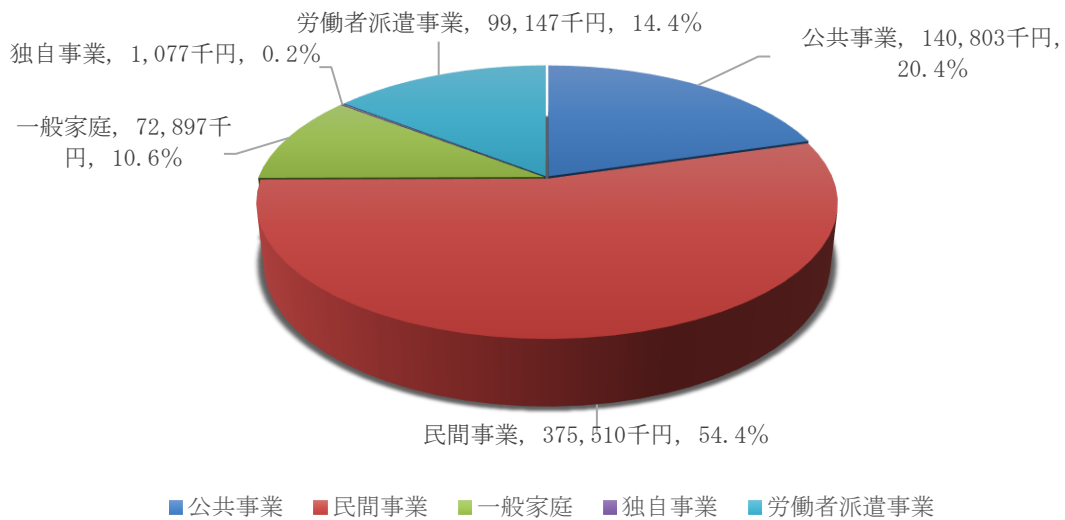
※ 派遣収入は、上段手数料収入の内、兵シ協分を除いた当センターの収入額です

「請負・委任」＋「派遣」の合計事業高

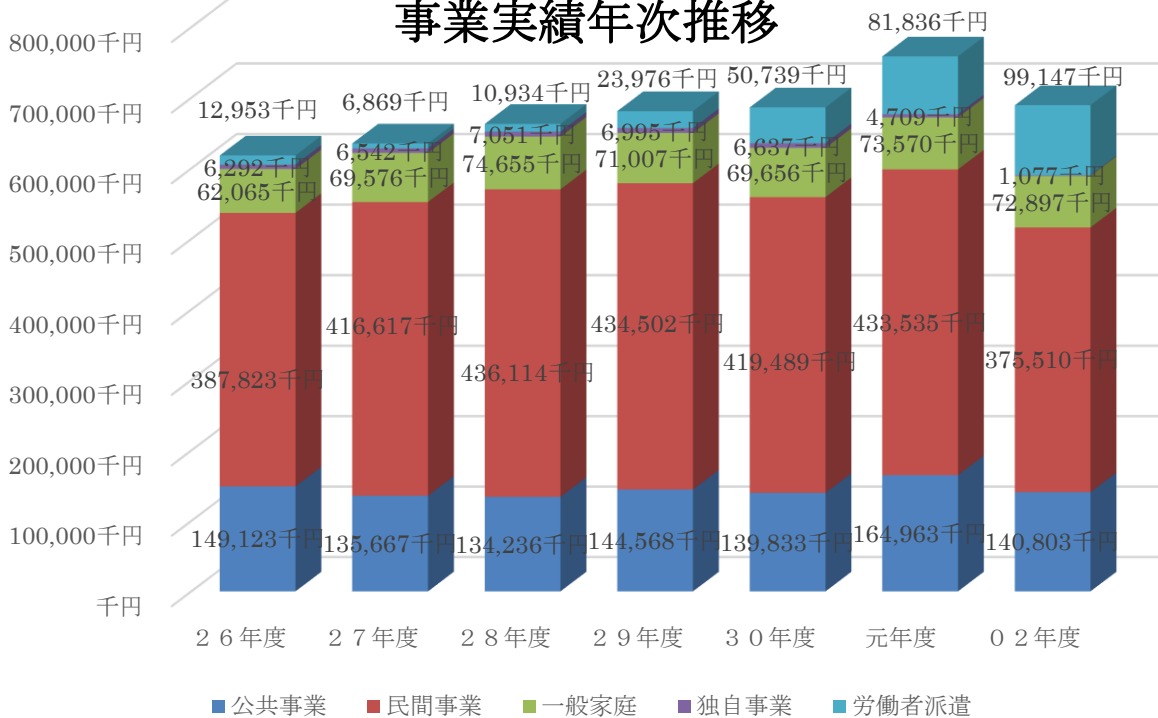
請負・委任及び派遣を合わせた全体の事業高合計は、年度目標の 7 億 2,300 万円の約 9% (6,918 万円) 減の、6 億 8,943 万円ととなり、7 年連続の記録更新とはなりませんでした。

合計事業高	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前 年 度 比	
請負・委任	635,615,480 円	676,777,320 円	590,287,082 円	▲86,490,238 円	87.2%
派 遣	50,739,125 円	81,836,489 円	99,146,964 円	17,310,475 円	121.2%
合 計	686,354,605 円	758,613,809 円	689,434,046 円	▲69,179,763 円	90.9%

部門別構成比（令和 2 年度）事業高



事業実績年次推移



(2) 会員の状況

257 人の新入会員に対し退会会員は 313 人、56 人減少となり令和 2 年度末の会員数は 2,197 人、前年度比 97.5%となりました。

市政ニュースの入会 PR 広告を年 11 回掲載するとともに、会員拡大チラシを市域全域に新聞折込しました。しかしコロナによる外出控も影響したのか説明会参加希望者も増えず、目標の 2,300 人には大きく届きませんでした。

男女別では、男性 32 人の減、女性も前年度までの増加傾向から一転して 24 人の減となりました。

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前 年 度 比	
入会者数	345 人	267 人	257 人	▲10 人	96.3%
退会者数	307 人	316 人	313 人	▲3 人	99.1%
増 減	38 人	▲49 人	▲56 人	▲7 人	---
会 員 数	2,302 人	2,253 人	2,197 人	▲56 人	97.5%

会員数 男女内訳等

区 分		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前 年 度 比	
会員数	計	2,302 人	2,253 人	2,197 人	▲56 人	97.5%
		平均 73.3 歳	平均 73.8 歳	平均 74.2 歳	0.4 歳	---
	男性	1,486 人	1,469 人	1,437 人	▲32 人	97.8%
		平均 73.9 歳	平均 74.3 歳	平均 74.8 歳	0.5 歳	---
	女性	816 人	784 人	760 人	▲24 人	96.9%
		平均 72.2 歳	平均 72.8 歳	平均 73.1 歳	0.3 歳	---
粗入会率		1.64 %	1.59 %	1.54 %		

上記、粗入会率計算方法： 会員数÷市内 60 歳以上人口 (14 頁参照)

(3) 就業率の状況

就業率は、前年度より就業実人員を 46 人減少しましたが、年度末の会員数が減少したことにより、前年度同様の 81.7%となり、目標を達成しました。

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 度	前 年 度 比	
会 員 数	2,302 人	2,253 人	2,197 人	▲56 人	97.5 %
就 業 率	79.5 %	81.7 %	81.7 %	・ ・ ・	100.0 %
就業実人員	1,829 人	1,841 人	1,795 人	▲46 人	97.5 %
就業延人員	211,880 人	224,436 人	208,819 人	▲15,617 人	93.0 %

※上記は請負・委任 + 派遣

2. 具体的な取組み

(1) 会員拡大と就業意識向上への支援【会員増強委員会】

新入会員拡大

各種広報媒体を利用して会員拡大を図った。

- ・ 市政ニュースに会員募集記事を年間 11 回掲載。
- ・ さくら FM など広報媒体を活用した会員募集 PR を実施。
- ・ 会員募集チラシの新聞折込を年 2 回（12 月、3 月）実施。
- ・ センター入口掲示板に会員募集ポスターを掲示。
- ・ 市広報掲示板 190 カ所に会員募集ポスターを掲示。（3 月）

入会説明会・研修会

- ・ 3 月から 6 月中旬まで新型コロナウイルス感染症拡大のため入会説明会・研修会を中止した。
- ・ 6 月下旬より 3 密を避け短時間・少人数を原則に説明会・研修会を再開。
半日ですべての手続きが終了するよう研修内容を変更し、開催日数を増やした。

未就業会員への就業促進活動及び就業意識の向上

- ・ 各種交流会・講習会の開催は、コロナ禍により中止した。

会員力の向上

- ・ 仕事に役立つ講習会等、コロナ禍により中止した。

(2) 地域ニーズに応える就業開拓活動の推進【就業開拓委員会】

前年度訪問の事業所で、受注の可能性が高い事業所を今年度も引続き訪問。将来の受注に繋げられるよう良好な関係性の維持に努めた。また、委員会の新たな取組みとして、新規開拓先選定を目的に事務局事業課と情報の共有化を図った。

- ・ 訪問 PR 活動として、年間 11 事業所を訪問し、2 件の受注があった。

イベント PR 活動

- ・白水峡墓参バス利用者に会員委託で、阪急西宮北口駅、市役所前で「お墓掃除」PR ティッシュの配布。
夏・秋：4日間（720部） 春：2日間（360部）
- ・満池谷墓地においても同様に「お墓掃除」PR ティッシュの配布。
秋：2日間（660部） 春：2日間（500部）
- ・市南部エリアの事業所にPRチラシを配布。
春：500部
- ・市広報掲示板に「いろいろなお仕事引き受けます！」ポスターを掲示。
春：190カ所
- ・「いろいろなお仕事引き受けます！」チラシを新聞折込した。
年2回（12月、3月）
- ・「さくらFM」でスポットCMを放送。
日曜、火曜の昼前 通年実施
- ・地域情報誌「宮っ子」、シニアライフ協会会報「いぶき」に広告掲載。
宮っ子：年1回 いぶき：年2回

(3) 健康で安全に就業できる環境づくり【安全・適正委員会】

会員の健康と安全意識向上のための啓発活動の推進

- ・就業に関わる事故の予防策として、「事故防止及び事故取扱基準」を制定（令和3年4月1日施行）するとともに、月報に取扱基準に関する記事を連載し、周知に努めた。
- ・月報に健康・安全に関する啓発記事を掲載、またはチラシを同封した。
 - 5月号 猛暑に備えて熱中症予防注意喚起のチラシ
 - 7月号 夏の交通事故防止運動 自転車安全五則のチラシ
 - 9月号 秋の全国交通安全運動 歩行者と自転車の安全のチラシ
 - 11月号 自転車事故多し！要注意！の喚起記事
 - 12月号 年末年始 健康と安全、及びコロナ感染防止の注意喚起記事
年末年始 交通事故防止の為「急がない」「無理しない」の記事
 - 3月号 春の全国交通安全運動 歩行者と自転車の安全運転チラシ
- ・100日間無事故無違反運動（チャレンジ100）に広報紙配送会員10名が参加し、目標を達成した。（10月1日～1月8日）
- ・委員会委員1名が救命普及員講習会を受講し、資格を取得した。（11月）
- ・広田山荘を管理する就業会員を対象に救命講習会を実施した。（11月9日～10日）
- ・健康維持及び交通安全の講習会はコロナ禍により実施できなかった。
- ・除草・剪定の就業現場に、所定の安全点検リストに基づき安全パトロールを実施

した。(6月～12月)

- ・令和2年度傷害事故及び賠償(物損)事故発生状況。

傷害事故が16件、賠償(物損)事故が7件発生した。

傷害事故	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度増減
就業中	11件	11件	6件	-5件
就業途上	3件	5件	10件	+5件
(内自転車)	(2件)	(4件)	(6件)	(+2件)
合計	14件	16件	16件	±0件
賠償事故	1件	2件	7件	+5件

就業中の事故はほぼ半減。就業途上、自転車事故、賠償事故は増加した。

適正就業への取組み

- ・事務局と連携し、適正な請負及び派遣へと取組みを行った。

(4) 地区地域班活動の活発化【地区活動委員会】

コロナ禍で地区活動が制限され、残念ながら多くの地区行事は中止せざるを得なかった。

地区地域班活動の活発化

- ・リーダー・サブリーダー会議や広報紙責任者会議において、地区間の課題整理と、事務局と地区との連携強化に努めた。

広報紙配送の課題整理

- ・配送部数(重量)と配送距離に着目し検討した。
- ・甲東地区の人口増加に対応するため、配送者を4人から5人に増やした。
- ・広報紙配布業務は一部にクレームとなる事柄が生じたものの、地区会員の尽力により、発注者から高い評価を得て実施できた。

地区地域班の努力により配布した広報紙等

市政ニュース	年：23回	
県民だより	11回	
市議会だより	4回	
県議会だより	4回	
市営住宅だより	4回	広報紙配布事業高
社協広報紙「しあわせ」	4回	98,928,741円
医療共済	7回	
その他(スポット)	2回	

合同清掃ボランティア

- ・コロナ禍により、中止した。

地区地域班での会員相互の交流と親睦

- ・会員が集まっての行事ができないので、班交流会や女子会などは中止し、唯一、地区だよりの発行が、各地区内での重要な情報交換の場となった。

(5) 組織活動の活発化ならびに情報受発信体制の強化【広報・企画委員会】

会員主体によるセンター活動ならびに地区活動の活発化については、コロナ禍により準備した取組みも中止となった。センターの知名度を上げる為のPR活動を中心に実施した。

会員向け情報発信の強化

- ・月報「シルバーにしのみや」を毎月発行。
- ・月報・翔アップ作成の参考として、芦屋市・三田市両シルバー人材センターを訪問し情報収集を行った。

対外広報活動の充実

- ・市民向けシルバーのPR紙「翔アップ」を全戸配布。
- ・1月からセンター入口広報掲示板を活用し、季節イメージを取入れた情報発信をした。

会員参加イベントの推進

- ・コロナ禍により、研修バスツアー、シルバーフェア、スポーツイベント、会員作品展は中止。

社会貢献活動の継続

- ・会員より回収したインクカートリッジ・ベルマークは、浜脇小学校と樋ノ口小学校に寄付した。
- ・さくら祭工作教室、ぴよぴよサロン×2回、夏休み子ども工作教室、子ども将棋大会、ヒロタ de うたごえはコロナ禍により中止。

(6) 会員への就業提供の推進【就業拡大チーム】

本年は、就業相談会を毎週定例開催とし、未就業会員の減少に努めたが、コロナ禍により、相談期間が大幅に制限された。

未就業会員への就業提供の推進

- ・定例就業相談会
実施期間：7月～1月、毎週月曜日午後
参加者：28名（内就業確定13名、待機1名）
- ・就業相談会への参加呼びかけ
6月 令和2年1～3月入会者の未就業者会員33名に相談会の案内を送付。

相談会参加者 3名

10月 令和2年7～8月入会者の未就業会員53名に相談会の案内を送付。

相談会参加者 9名

- ・未就業会員へのアンケート調査と就業相談会への参加呼びかけ

1月 令和2年9月～11月入会者の未就業会員38名に送付。

回答者：28名、 相談会参加者 1名

3月 平成30年4月～令和2年8月入会の70～75歳の未就業会員52名に送付。

回答者：20名

- ・各地区での就業相談会はコロナ禍により中止した。

女性会員の就業機会の確保

- ・未就業会員へのアンケートにより希望職種ニーズを把握した。

(7) 第3次中期計画進捗管理【事業推進会議】

会員理事及び各委員会委員長等による事業推進会議は中期計画の進捗管理は、コロナ禍により事業が進まなかったことにより十分な目的を果たすことができなかった。

- ・基本目標の**事業高、会員数**ともコロナ禍による影響により、目標を大きく下回り目標を達成することができなかった。(4頁、5頁参照)
- ・**就業率**は分母となる年度末の会員数が減少したことにより80%を達成した。(6頁)
- ・計画に掲げる各事業については、ほぼ中止としたため、各委員会の活動も停滞した。

(8) 組織活動の活発化【理事会】

理事会、委員会、事務局が連携してコロナ禍で可能な事業運営を図った。

委員会活動

- ・各委員会ともコロナ禍の影響により、多くの活動が制限された。その中でも、工夫を凝らし、安全第一で出来る範囲での活動や、取組みを実施した。

財政体質の強化

- ・公益法人に相応しい適切な支出に努めた。

関係団体との連携

- ・兵庫県、西宮市、全シ協、兵シ協、近隣シルバー、社会福祉協議会等、関係機関との連携に努めた。
- ・近隣シルバー理事長会議と連絡を連携し、情報収集及び意見交換を行った。
- ・阪神ブロック会議に出席し、情報収集と連携を図った。

他シルバーとの交流

- ・広報・企画委員会が芦屋市及び三田市シルバーに情報収集のため視察研修を行っ

た。

- ・植木剪定業務の改善について、理事・事務局職員が芦屋市、箕面市、吹田市、河内長野市シルバーを視察研修した。

(9) 事務の効率化と会員活動への支援【事務局】

(公社) 兵庫県シルバー人材センター協会と連携した事業

派遣事業への取り組み

- ・新規受注は、請負か派遣かを見極め適正就業となるよう契約推進に取り組んだ。

有料職業紹介事業

- ・令和2年度も有料職業紹介に至るまでの相談事例はなかった。

効率的かつ適正な事務局業務の推進

- ・事務局は兵シ協及び阪神ブロック（8市1町）の各シルバー事務局と随時事務処理について情報交換を行った。
- ・近シ協、兵シ協、民間開催の研修会に出席し事務能力の向上に努めた。
- ・就業相談会の実施

就業相談会を継続実施した。(9頁参照)

理事会、委員会、地区地域班との連携強化

- ・理事会、委員会と連携し事業運営の支援を行った。
- ・地区地域班活動について随時支援を行った。